

令和5年度事業報告

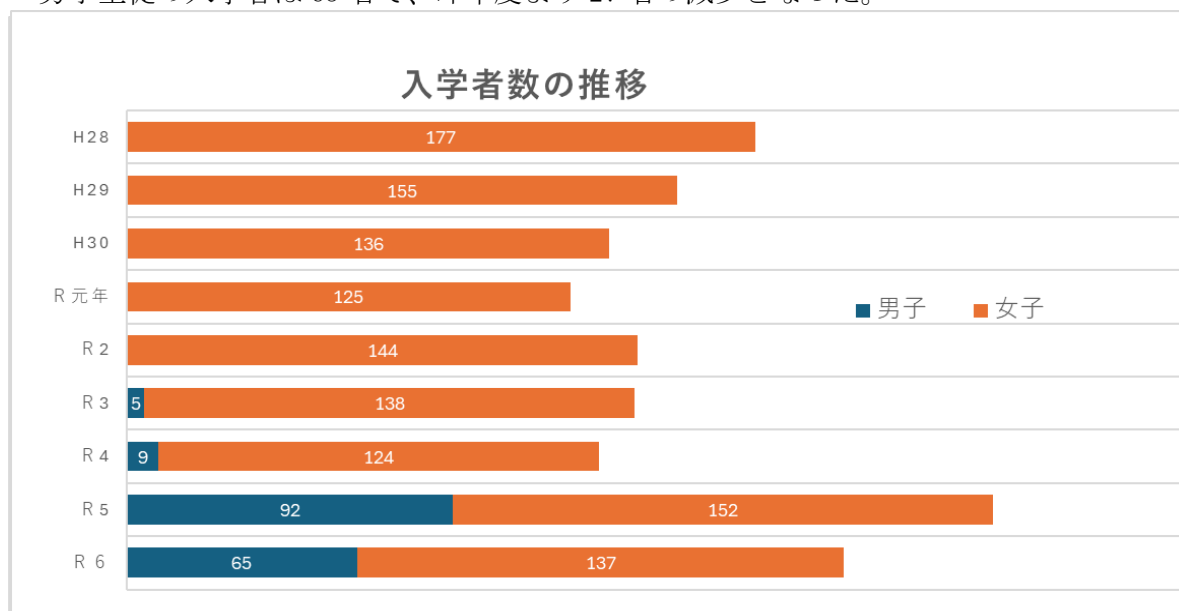
1 生徒数の推移

(1) 入試状況

入学年度		単願	併願	再募集	総受験数	入学数
6	男子	66	49	0	115	65
	女子	132	125	0	257	137
	合計	198	174	0	372	202

予定通り学校見学・説明会を3回、計4日間開催した。その参加数は855名で前年より85名(11%)増加した。志太榛原地区の中学3年生の人数が217名減少したが、受験者数は前年度より13名(3%)減に留まった。定員に対する単願者の倍率は1.13倍で、志太榛原地区の私立高校では1位であった。

男子生徒の入学者は65名で、昨年度より27名の減少となった。



(2) 在籍生徒数 (令和6年4月1日)

生徒数	年次	男子	女子	合計
	1年次生	65	137	202
	2年次生	87	144	231
	3年次生	9	115	124
計		161	396	557

(3) 卒業生の進路状況

年度	大学	短大	高看	専門	就職	他	計
5	12	4	0	47	57	3	123

2 令和5年度の指導と成果

(1) 教科指導方針及びその成果

観点別学習状況評価の実施に伴い、「指導と評価の一体化」を意識した授業力向上に取り組んだ。ペアワークやグループ学習を取入れた校内研究授業は、教科の枠を超えて多数の教員が参

加し、授業改善の意見を出し合った。また、3観点を適切に評価するために、教科会議や職員会議で検討を重ねた。

(2) 生徒指導方針及びその成果

予防的指導に重点を置き、外部講師による交通安全教室や薬学講座等を実施した。SNSに関わる生徒指導が全国的に増加傾向にある中、情報端末の適切な使用についての呼びかけを、学年集会や全校集会において継続的に実施した。また、教員間の情報共有機会を増やし、生徒を多面的に支援することを心掛けた。年度途中で複数の教職員が退職し、教科担当及びクラス担当が変更となる事態が発生し、生徒に不利益を与えたので、再発防止対策を打たなければならない。

(3) 進路指導方針及びその成果

SPI 対策、資格取得など進路目標にあわせた取組を継続し、進路別にガイダンスを実施した。就職指導では、求人票閲覧ソフト Handy を導入し、登録した生徒保護者が家庭で自由に求人票を閲覧できる環境を整えた。また、生徒が自身の強みを生かせる職業選択ができるよう繰り返し面談を実施し、学校推薦による就職内定率 100%を達成することができた。自己開拓を希望する生徒に対しても生徒の希望を確認しながらハローワークと連携して指導に当たった。また、次年度以降、男子の卒業生が大幅に増加することから、年間を通じて企業訪問を実施し、新規事業所の開拓に尽力した。

進学指導では、総合型選抜入試で昭和音楽大学や静岡県立大学短期大学部に合格し、学校推薦型選抜入試で愛知学院大学等に合格した。総合学科の学びを活かして、プレゼンテーションを用いた入試（田園調布学園大学）やスポーツ推薦入試（静岡産業大学）等の多様な入試形態を活用した生徒もあり、進学決定率は 100%を達成した。一方で、大学合格後に経済的理由で入学を断念する生徒が出たことは大変残念であった。今後、三者面談等で学費等の確認を繰り返す必要がある。

3 学校内の改革

(1) 常に社会情勢や生徒保護者の変化を捉える姿勢を保ち、正しい生徒理解と働きやすい労働環境のために、人権尊重、説明責任、法令遵守に対する教職員の意識を高めるよう、機会あるごとに促した。

(2) 以下の研修を行い、指導力向上に努めた。

ア 特別支援教育士の夏目徹也氏を講師に招聘し「発達障害の理解と支援」をテーマとして、研修会を実施した。代表的な発達障害についての基礎知識と学校での対処法について具体的な事例をもとに講習を受け、教員間で共通認識・共通理解をする機会となった。

イ 次年度入学生から一人一台端末が導入されることから、ICT 教育の研修会を 2 回実施した。1 回目は、NTT ドコモから講師を招聘し「ロイロノートの実践的な活用法」を実施した。2 回目は新 1 年生に iPad の初期設定と登録方法を指導するために必要な手順とポイントを研修した。

(3) 多様化する社会の変化に対応するため、及び教職員の業務注力化のため、以下のとおり次年度の改変の準備を進めた。

ア 組織力を高めて教育力向上を図るため、年次部主導の進路指導や行事運営を分掌主導の運営に徐々に切り替え、組織の整理と体系化を進めた。

イ 超過勤務を削減し働き方改革を推進するため、出退勤時間を管理するタイムカードを導入し、定時退勤日の設定などで超過勤務削減に努めた。また、賃金体系の見直しや就業規則の改変により教職員の労働環境の改善を進めた。

ウ 教育のDX化を促進し、次年度の一人1台端末導入に対応するため、ICT支援員を採用して校内ネットワークの整備と情報の一元化を進めた。

エ 総合学科の特長を活かし進路目標を達成するために、1年次の「産業社会と人間」、2・3年次の「総合Ⅰ・Ⅱ」を中心に3年間の学びを体系化したロードマップの作成に取り組んだ。

オ 生徒の主体性育成のため、部活動の新設・統廃合を進めた。

カ 男子トイレの新設をはじめ施設設備の増改築を実施した。また、生徒数増加に対応するため、教室配置やスクールバス運行等で工夫に努めた。

4 施設・設備等の充実

名 称	支 出 額	備 考
プロジェクター設置工事	2,543,640円	普通教室 8室
本館トイレ(2階～4階)改修工事	40,700,000円	

5 学校経営の改善

(1) 収入

安定した生徒数の確保が学校経営の財源維持につながるため、積極的な広報活動等を行い財源確保に努めた。

(2) 支出

南館及び新体育館建設資金(5億円)の借入返済額が年間2,600万円(返済期間20年、完済日令和15年7月21日)となっていることから、校内における経費の節減に努めた。